

ハウスビワにおけるメバニピリムフロアブルと各種農薬との混用関係						
<p>[要約] <u>ビワの灰色かび病防除剤であるメバニピリムフロアブルは、ハウス栽培のビワにおいて主要殺菌剤および殺虫剤、殺ダニ剤と混用して散布しても果実および葉に薬害を生じない。</u></p>						
長崎県果樹試験場・病害虫科	専門	作物虫害	対象	果樹類	分類	指導
平成12年度 長崎県果樹試験場業務報告						

[背景・ねらい]

ハウス栽培ビワでは開花期から落弁期は灰色かび病や果実腐敗、たてぼや症の防除時期となり、多くの薬剤が散布される。散布の際にはこれらの病害虫を対象に圃場で薬剤が混用される場合も多い。そこで、灰色かび病防除の新規剤であるメバニピリムフロアブルと各種殺菌剤および殺虫剤を混用した場合の薬害の有無を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- ① ハウス栽培のビワ‘長崎早生’において開花期に1回メバニピリムフロアブル 2,000倍と以下の主要な農薬を圃場で混用調整し散布しても、花および果実、葉において薬害は発生しない。薬剤はベノミル水和剤、チオファネートメチル水和剤、イミノクタジンアルベシル酸塩水和剤、カスガマイシン・銅水和剤（以上殺菌剤）、イミダクロプリドフロアブル、アセタミプリド水溶剤、アラニカルブ水和剤、フルバリネート水和剤、ペルメトリン水和剤、フェンプロパトリン水和剤、トラロメトリンフロアブル（以上殺虫剤）、ピリダベン水和剤（殺ダニ剤）である（表1）。
- ② これら薬剤の混用後に薬剤の異常沈殿などは生じない。

[成果の活用面・留意点]

- ① ハウス栽培は薬害が発生しやすい条件なので、散布に当たっては、薬剤が速やかに乾くような条件下で使用する。
- ② 薬剤混用後は速やかに使用する。

[具体的データ]

表1 メバニピリムフロアブルと各種農薬を混用した場合の葉害の有無

混用薬剤名	使用濃度	散布後日数別の葉害発生の有無				
		5日後		33日後		約80日後
		花房	葉	幼果	葉	幼果
ベノミル水和剤	2,000倍	—	—	—	—	—
チオファネートメチル水和剤	1,000	—	—	—	—	—
イミノクタジンアルベシル酸塩水和剤	1,000	—	—	—	—	—
カスガマイシン・銅水和剤	1,000	—	—	—	—	—
イミダクロプリドフロアブル	2,000	—	—	—	—	—
アセタミプリド水溶剤	2,000	—	—	—	—	—
アラニカルブ水和剤	1,000	—	—	—	—	—
フルバリネート水和剤	4,000	—	—	—	—	—
ベルメトリン水和剤	2,000	—	—	—	—	—
フェンプロパトリン水和剤	2,000	—	—	—	—	—
トラロメトリンフロアブル	2,000	—	—	—	—	—
ピリダベン水和剤	2,000	—	—	—	—	—
メバニピリムフロアブル単用	2,000	—	—	—	—	—
無散布	—	—	—	—	—	—

注1. メバニピリムフロアブルの使用濃度は2,000倍

2. 散布：1999年11月24日（開花期）、調査：1999年11月29日（開花期）、
12月27日（幼果期）、2000年2月14日（幼果期）

3. 品種：長崎早生8年生（ハウス栽培）

表2 使用薬剤の一般名・商品名の対照表

一般名	商品名
メバニピリムフロアブル	フルピカフロアブル
ベノミル水和剤	ベンレート水和剤
チオファネートメチル水和剤	トップジンM水和剤
イミノクタジンアルベシル酸塩水和剤	ベルコート水和剤
カスガマイシン・銅水和剤	カスミンボルドー
イミダクロプリドフロアブル	アドマイヤーフロアブル
アセタミプリド水溶剤	モスピラン水溶剤
アラニカルブ水和剤	オリオン水和剤
フルバリネート水和剤	マブリック水和剤
ベルメトリン水和剤	アディオオン水和剤
フェンプロパトリン水和剤	ロディー水和剤
トラロメトリンフロアブル	スカウトフロアブル
ピリダベン水和剤	サンマイト水和剤

[その他]

研究課題名：カンキツ病害虫の防除法

予算区分：委託

研究期間：平成12年度（昭和59～）

研究担当者：中村吉秀、大久保宣雄